

自然破壊への責任

北中城村立北中城中学校 3年生 瀬底 蘭

「ねえねえ、今週ライカム行かない？」

「えー、また？でも良いよ。」

ちょうど三年前、私が六年生になったばかりの頃。何の商業施設も無かった私達の北中城村に「イオンモール沖縄ライカム」が誕生しました。今ではもう出来る前はどうしていたのかと思うほど、友達と遊んで食事をしたり、買い物をしたりと、今では子供も大人も私達の生活になくてはならない場所となりました。

そんな沖縄ライカムオープンを祝う植樹祭に参加した時のことです。私が記念樹を植えていると隣にいたおばさん達の話し声に手が止まりました。

「はっしえ、こんなに広い土地の分の木をたくさん切っておきながら、たったこれだけの苗植えて、何の意味があるかねえ。」

その会話は、植樹祭後のプレオープンで、初ライカムに興奮し楽しんだ後もずっと私の頭から離れずにいました。そしてそこでの時間が一年後、ある新聞社主催の「沖縄環境調査隊募集！テーマ・自然との共存共生」という見出しに目が止まるきっかけになり、応募し参加させてもらえることになりました。

その参加した環境調査隊では、県内外の山林や海岸、観光地、ごみ処理場を見て回りました。私達人間の開発により、生息場所を奪われる生き物達。私達の捨てたゴミに絡まったり汚された事により命を奪われている彼らの現実を目の当たりにし、愕然としました。

かつて、この小さな島なりに細々と平和に仲良く暮らしていたはずの沖縄。それが戦争で豊かな土地は奪われ基地になり、長い年月をかけ少しずつ返還された土地には、ライカムのような商業施設が建ち、私達沖縄の観光産業を発展させてくれ、今では観光人口もあのハワイを超える世界有数の観光地となりました。

でも、発展の裏には必ず犠牲が伴います。

たぶん、それがこの沖縄でいう「自然」だと思います。

以前見た観光客アンケートで、沖縄観光に求めるもの第一位は、「青い空・青い海」そう自然。その後に沖縄の独自の異文化や平和問題等に触れられるなどと続いていました。

やはり県外にはない、沖縄の恵まれた自然を求めて来てくれる観光客を一人でも多く迎えたい、少しでも多くのニーズに答えたいと思うほど、より多くの宿泊施設やよりよい滞在環境を提供するために、未開発地域の木を伐採し、ビーチを兼ね備えた良い景観の宿泊施設建設の計画で海岸を埋め立てる。沖縄の自然を感じに来てくれる観光客のことを思うほど、自然を壊していく、人工的に手を加えていくような現状に、環境調査隊の活動をしながら何とも言えない気持ちになりました。

でもその後、隊員らと訪れた企業訪問では、企業の経営を支える銀行が推進するサンゴ保全や緑化活動、ペットボトルのポイ捨てに悩む飲料会社を中心となり行うゴミ拾い活動。それをサポートするゴミ処理施設の企業努力など、沖縄の観光産業発展の裏には「環境破壊を最小限に、環境保全を最大限に」努めようとする大人達の努力がたくさんもじりあって成り立っているという沖縄の現状を知りました。

もちろん自然は大切です。私達人間は自然があつてこそ生きられるし、生かされている。でも、その自然達の犠牲の上に成り立つ便利な現代社会に生まれ、育ち、生きている私達が出来る事、していかなければならない事は何だろうか。

ライカムの植樹祭で会ったあのおばさんは握って苗を手に、「たったこれだけ植えたって、意味なんかない。」と言いました。いや違う。今の私ならわかります。大切なのは、植える苗の量じゃない、その苗を手にとること、苗に未来を描く私達の意識なのです。

そこに生きる地域の人とともに植樹祭を開催した企業の意義は、自然の犠牲や地域の自然環境を変化させた事を認識しているからこそ願う、沖縄の未来への発展や自然破壊からの再生への責任の表れなのだと、今思います。

この豊かな自然に囲まれながらも、いろんな商業施設で楽しく過ごすことが出来るのは

、
大人達のたくさんの努力のおかげだということ。そんな大人達や自然に感謝しながら、無限ではない自然と共生していくために、人間と自然の共存共生を意識する一県民になりたい。観光客や地元の私達、そして自然や生き物にとっても、あのひと握りの苗を手に嘆いた植樹祭でのおばさんも、誰もが安心してくれるような、魅力ある沖縄でいられる力になっていきたいと思います。

今度の休日、またライカムに行ってみよう。そして、店内だけでなく帰りは植樹祭で植えた木も見よう。そしてその木々達の成長に負けないよう、沖縄の未来への自然や発展に向け、自分自身の知識も意識も成長させていこう。そして、今日も自然破壊の責任を果たしながら、さらなる沖縄の発展のために一生懸命頑張る大人達の一員になれるように成長していきたいと思います。